

第 40 回

鳥取県西部歯科臨床懇談会

と き 令和 2 年 12 月 6 日(日)
午前 8 時 45 分～午後 1 時 00 分

と ころ 米子市両三柳104-1
鳥取県西部歯科医師会館
☎ 33-3864

主催 鳥取県西部歯科医師会学術委員会

第40回 西部歯科臨床懇談会によせて

鳥取県西部歯科医師会

会 長 植 木 泰 久

恒例になっております鳥取県西部歯科医師会臨床懇談会が40回を迎えることが出来ました。これも一重に西部歯科医師会会員の日ごろからの研鑽とご努力とご協力のおかげだと思っております。

今年度2020年は西部歯科保健センター50周年の記念すべき年であり、本来ならばオリンピックイヤーでもあります。新型コロナウイルスの世界的な蔓延により日本でも東京を中心に広がりが見られ、今や家庭内感染も危惧され、病院、施設、各種イベントでのクラスターが発生しております。

一段落したとしても冬に向けての第3波を迎え撃つ準備しているのが現状です。

さて今回40回の臨床懇談会は特別公演を「デジタルデンティストリイの現状」と題して歯科医師の未来的思考を実践されておられる札幌市で開業されている千葉 豊和先生に、その有効性と問題点についてご講演をお願いしております。

また一般公演はARON J、歯周病、小児の言葉と発音の発達、口腔外科関連等のパリエテナーに富んだ講演が拝聴できると思っております。

最後になりますがこの会の開催にご理解とご協賛して頂いております関係各位の皆様にお礼申し上げます。

この会がご参加の会員の明日からの臨床に役立つ会になる事を願って挨拶とさせていただきます。

第40回 鳥取県西部歯科臨床懇談会日程

8:45 ～ 受付開始

9:10 ～ 会長挨拶

9:15 ～ 10:05 一般口演

座長 坂根 令一

1) ことばの発達が気になる 発音が気になる

～錦海リハビリテーション病院 小児言語聴覚療法について～

○演 崎 喬 之¹⁾ 竹 内 茂 伸¹⁾ 足 立 融²⁾

1) 錦海リハビリテーション病院リハビリテーション技術部言語聴覚士

2) 錦海リハビリテーション病院協力歯科医

2) P I S A ? ?

あい・あだちデントラルクリニック 足 立 融

3) 学術委員会アンケートの結果について

学術委員会

○小 徳 崇 人	森 脇 祥 博	岡 本 和 巳
足 本 敦 一	今 井 俊 広	高 野 淳 人
坂 根 令 一	中 田 貴 康	野 坂 明 寛
白 石 康 博		

4) 遺伝性血管性浮腫患者の抜歯経験

○谷 尾 俊 輔¹⁾ 小 谷 勇²⁾

1) 米子医療センター歯科口腔外科

2) 鳥取大学医学部感覚運動医学講座口腔顎顔面病態外科学分野

10:15～11:25 特別講演

座長 今井俊広

5) デジタルデンティストリーの現在地

北海道札幌市 医療法人豊翔会 千葉歯科クリニック 理事長 千葉豊和

11:25～11:35 休憩

11:35～12:50 特別講演

北海道札幌市 医療法人豊翔会 千葉歯科クリニック 理事長 千葉豊和

12:50～ 閉会の挨拶

1) ことばの発達が気になる 発音が気になる ～錦海リハビリテーション病院 小児言語聴覚療法について～

○濱崎 喬之¹⁾ 竹内 茂伸¹⁾ 足立 融²⁾

- 1) 錦海リハビリテーション病院リハビリテーション技術部言語聴覚士
- 2) 錦海リハビリテーション病院協力歯科医

「米子市障がい者支援プラン2018」によると平成28年度米子市の全小学校の児童数8099人のうち、特別支援学級の児童数は189人であった。そのうち、支援学級の種別は肢体2名、知的72人、病弱6人、難聴1人、自閉・情緒108名であり、知的学級と自閉・情緒学級への在籍者が全体の95%を占めている。

また、発達障害の診断を受けている児童数は平成28年度で399人であり、通級指導を受けている児童はことばの教室(構音、吃音)は17人、まなびの教室(行動、情緒、学習)は99人であった。発達障害の診断を受けており、通級指導を受けている児童は約29%であり、残りの約7割の児童は個別の支援がなく、通常学級の中で過ごしている。

平成29年9月時点で米子市内における障害児通所支援を実施している事業所は児童発達支援3か所、医療型児童発達支援1か所、放課後等デイサービス15か所となっている。また、言語聴覚士が在籍し、リハビリテーションを実施している医療機関は4か所である。

学校教育の中で発達障害の診断を受けた児童の約7割が個別の支援を受けられない現状や障害がある児童数に対する医療機関や療育施設数が少ないことから療育を受ける場が不足していると考えられる。そのため、錦海リハビリテーション病院では小児の言語聴覚療法に特化したリハビリテーションを開設した。

当院の言語聴覚療法では、学習障害(文字を読んだり書いたりすることの苦しさなど)、構音障害(「さかな」が「ちやかな」「さたな」になるなど)、吃音(初めの言葉が詰まって出にくいなど)、言語発達遅滞(言葉がなかなか出てこないなど)などの障害を対象とし、個別のリハビリテーションを通して必要な時期に必要な支援を受けられることや親が安心して子育てできるように支援を行っていく。また、必要に応じて幼稚園や保育園、小学校、他医療機関などと連携しながら、子どもたちが地域の中でよりよい生活を過ごすことができるような支援を目指していく。

「ことば」とはなんなのか、「ことば」の発達とはいったいつから始まるのか、子どもとどう接していけばよいのかなどについて触れながら、「ことば」を話し始める前からお話をし始めたときなどそれぞれの発達段階に合わせた子どもへの声かけの方法やかかわり方について考え、言語聴覚士からみた「ことば」の発達について発表する。

2) PISA??

あい・あだちデンタルクリニック

足立 融

糖尿病での医科歯科連携の重要性が唱えられていますが、なかなか連携が進みません。その原因の一つに、内科からはHbA1cが高血糖の程度を表す指標ですが、歯科からの歯周炎の程度を表す指標がないことが挙げられています。

そこで日本歯周病学会が2018年9月、日本歯科医学会に歯周炎評価指標として「PISA」の新規導入を通知しました。その後、大学の臨床研究での拡がりがありますが、一般開業歯科医への普及が不十分で、その使用に至っていません。今回、その指標について説明します。

3) 学術委員会アンケートの結果について

学術委員会

○小徳	崇人	森脇	祥博	岡本	和巳	足本	敦
今井	俊広	高野	淳人	坂根	令一	中田	貴康
野坂	明寛	白石	康博				

先日、西部歯科医師会会員の皆様に学術委員会からのアンケート調査にご協力いただき、ありがとうございました。

前回、平成28年にB.P製剤のアンケートをさせていただき、今回2回目になりましたが、その間に鳥取県西部骨粗鬆症・顎骨壊死医師薬連携研修会も7回行われ、以前よりもよりたくさんの方々がARONJに関心を持たれ前回以上の回答の数に驚きました。

今回はそのアンケート結果について述べさせていただきます。

4) 遺伝性血管性浮腫患者の抜歯経験

○谷尾 俊輔¹⁾ 小谷 勇²⁾

- 1) 米子医療センター歯科口腔外科
- 2) 鳥取大学医学部感覚運動医学講座口腔顎顔面病態外科学分野

【緒言】 遺伝性血管性浮腫 (HAE) は、補体第1成分阻止因子 (C1-INH) の欠損もしくは活性低下により反復性浮腫を生じるきわめてまれな常染色体優性遺伝性疾患である。今回われわれは、HAE患者の抜歯を経験したので、その概要を報告する。

【症例の概要】 患者は41歳の女性で、2018年11月に当院胸部・乳腺外科にて左側乳癌に対し手術予定であり、周術期口腔機能管理目的に同月当科を紹介され受診した。初診時、口腔清掃状態は不良であり、両側上顎智歯に歯面の広範囲におよぶ齶蝕を認めた。その他の既往歴は2018年9月に顔面の腫脹を契機に精査され、HAEと診断されており、家族歴は実父がHAEと診断されていた。入院下での抜歯予定とし、抜歯の1時間前に静脈路を確保し、C1-INH製剤を予防投与した。気管内挿管および気管切開の準備をした上で、局所麻酔下で上顎両側智歯の抜歯を行った。術後は気道確保の準備をした上で、第3病日まで夜間は経皮的酸素飽和度を測定した。術後、HAEによる浮腫は認めず、第3病日に経過良好につき退院となった。

【結語】 HAE患者に対して、HAEガイドライン2014に従いC1-INH補充療法後に智歯抜歯を行った。術中、術後経過に問題は生じなかったが、抜歯等の侵襲性が高い処置を行う場合には喉頭浮腫発現に対し、入院管理下で気道確保の準備、モニター管理下での処置が望ましいと思われる。

特別講演

5) デジタルデンティストリーの現在地

医療法人 豊翔会 千葉歯科クリニック 理事長
千 葉 豊 和

今日、デジタルデンティストリーという言葉が流行り言葉のように出回っている。デジタルデータ上での作業は、天然歯の上部構造、インプラントのブラッシング、ガイド作製、上部構造作製、最近では義歯においても作製可能となってきた。また顔貌写真と口腔内スキャナーさらにはCTデータをワッチングさせる次元的な診察・検査・治療計画の立案までがデジタルデータにより行うことが可能となっている。今回今現在演者がどのように活用しているかについて症例を通して紹介するとともに、その有効性と問題点について報告する。

略歴：
1989年 東北歯科大学 卒業
1993年 奥羽大学歯学研究科 卒業
1993年 奥羽大学歯科補綴学第2講座 助手
1994年 東京都渋谷区 原宿デンタルオアシス 勤務
1997年 札幌市中央区 千葉歯科クリニック 開業

現在：日本補綴歯科学会 専門医
スタディイグループ S J C D インターナショナル (日本臨床歯科医学会) 会員
日本臨床歯科学会 指導医
岩手医科大学歯学部 歯科補綴学・インプラント学講座 非常勤講師
北海道医療大学歯学部 クラウンブリッジ・インプラント学講座 非常勤講師